

【議事録】第2回長井市公共施設等整備計画検討委員会

日 時 平成 28 年 9 月 28 日（水）15：15～17：00

場 所 タス パークホテル 3階「絋」

概 要

今年度 11 月頃までに策定予定の公共施設等整備計画について、9 月に実施した市民意見募集（パブリックコメント）の結果および第 1 回の協議を踏まえた計画修正の報告と、計画案についての 2 回目の協議を行った。

内 容

1. 開会

2. あいさつ

（委員長）

公私ご多忙の中、今日の会議へのご出席に感謝。米澤新聞の記事に長井市役所庁舎の更新について掲載されていた。市民からも時々話題として挙がっているようだ。市の財政状況は芳しい状況ではないが、かといって公共施設の更新や修繕は先送りもできない。委員の皆さんは日頃、まちづくりや経営など各々の立場で携わられている。各位の視点で、本日も忌憚のないご意見を賜りたい。

（副市長）

第 2 回目の会議へのご出席に感謝。8/19 の第 1 回会議の後、9 月に市議会があり、議員からは公共施設に関する質問が相次いだ。将来の財政負担がどうなるか、公共複合施設や市庁舎をどこに建てるのか。市のホームページに議会の議事録や VTR があるのでご興味があればご覧いただきたい。9 月間に行ったパブリックコメント募集には 1 件の意見があったので議事にて説明する。皆さんから意見を頂き、計画に反映できるところは反映し、より良いまちづくりに生かしていきたい。

3. 協 議

（1）市民意見（パブリックコメント）募集結果について

（事務局説明）…別添資料のとおり説明。

（委員）菊地隆知氏の作品は、市ではどのように管理している？

（委員）小美術館の構想は良いと思う。ただし美術館は予算がかかり大都市でないと難しいと思う。

（委員）菊地隆知氏の作品展示については複合施設に限らず市内のいずれかの施設で扱うという市の考えがわかった。ただ、ご意見のとおり複合施設の中でもありだろう。美術品をコンパクトにまとめて展示するとお客は意外と来ると思う。

（委員）今年度、芳文社が所蔵していた美術コレクションと建物が市に寄贈されたと聞いた。コレクションを開放するスペースを複合施設の一角に設ける考えもあり

だろう。

(副市長) 市でも菊地隆知氏の作品の寄贈を受けている。皆さんに見ていただく場所をどうするか。常設の展示施設としては文教の杜がある。また現在、文化交流施設として活用を検討している長井小第一校舎でのギャラリーの構想もある。その他、市役所機能がタウンセンターの2階に入ることになればそこでも展示できる。小美術館に限定せず、様々検討していきたい。

(2) 公共施設等整備計画(案)について

① 前回からの修正点について

(事務局説明) …別添資料のとおり説明。

→委員から質問・意見は無し。修正部分については了承をいただいた。

② 第1章～第3章部分について

(事務局説明) …別添資料の要点のみ説明。

(委員) 公共施設の多くは市民の要望の他、国の事業に関連して建てられた経過がある。市民の要望で建てた施設の稼働率、利用率の状況はどうか?利用が少なければ廃止の英断も必要。市内施設は点在しているので、長井駅から最上川までの800m間に集中した整備がいる。議会等で、公共施設は利益を上げてはならないといった話が出てくるが、民間では利益が必要。公共施設を利用する受益者負担の考えも必要。市庁舎や子育て支援の公共複合施設など、必要なものを集約できれば良いと思う。

(委員) 子育て世代や働く世代の意見があまり取り入れられてないように感じる。市内の働く場所が減っているので、ベッドタウン構想も考える必要もある。中高生など若い世代に光を当てるような構想が欲しい。ゲームセンターが良いわけではないが、遊び場を整備しないと若年人口は減っていく。若者が長井は良いところだと思えば、人口が減らず、商業が成り立つ。黒獅子の里施設や小美術館があり、そこに行けば笛や太鼓の音が聞こえるような場所があればよいと思う。

(委員) ヨークベニマルの撤退で本町を歩いている人が少ない。子どもと接する機会が地域の祭り。小中学生は地域内で生活しているのでお祭りへの参加率は高いが、高校・大学生になれば地域から必ず離れる。少年時代に思い出を作れる場所、遊ぶ場所が無い。居住と就職は市外で、お祭り時期に帰ってくるという人もいる。若い人はゲームセンター、本町の旧ヨークベニマルのような店舗施設が欲しいと言う。長井では遊び場が無く、若者は住みづらいと思っている。既存の施設のリノベーション、例えば桑島記念館等の活用も考えられる。面白いものを作り、発信する力をつけていかなければならない。雇用面では企業側の就労拡充も求められるがそれには行政の支援も必要。U・Iターンには雇用が必要。

(委員) 郊外地域では公共施設の更新よりも維持管理が地区にとって負担になっている。各地区の努力が必要。地区の協力金の徴収も高齢者世帯や単身世帯の増加で世帯当たりの負担が大変になっている。まちなかに近い特定の地区では住居が増えているが、他は増えていない。地区からの補助金のうち、教育系の補助が最初

に削られてしまっている。これはいかななものか。他地区も同様の状況か。各地区で地域づくり計画を作っている最中。これからの時代、各地区のアイディア勝負になってくるかと思う。

(委員) 長井ではイベントでは人が集まるが日常的に寄り集まる場所が無い。米沢の「ナセ BA」のような場所を行政が提供すべきか。公共施設は明確な目的を持っているが、今は旧ヨークベニマルのような機能を持った複合施設が必要ではないか。

(委員) 箱モノを作るのに抵抗を感じている。箱モノはハードだけが問われがちだが、建物と周りの関係性も重要。周囲には自然があることに気付く。若者向けにはアミューズメントは目を引くが、それから脱却する必要があると考えている。我々が子どもの頃の遊びに戻り、川まちづくりを発展させ、歩くだけでなく遊ぶ展開が欲しい。現状、観光シーズン以外のあやめ公園とつつじ公園の活用が最悪だと思う。まちなかに広大な公園が2つあるのに、子どもは見当たらず高齢者の散歩しか見えない。最近まちなかの水路巡りが観光資源になっていると聞くが、市民のものになっていない。差別化された長井市を明確化していく必要がある。

(委員) 老朽化した建物の要不要は、市民の要望に沿って必要なものを直していくしかない。人口減にどう対応するか。行政だけでは無理だと思う。民間とどうタイアップするか。民間は資金、行政は土地を提供して。長井の取り組みを全国に紹介してもらえるような、余所から永住してもらえるような手立てを。子どもの数が激減し、ある地区では昔は1学年4クラスあったのが今は十数人しかいない。嫁に来てくれる人がいない。先日開催された「ぼくらの文楽」は市内だけでなく全国からお客が来る。若い人が集まるイベントから人口増に繋げ、人口が維持できれば施設も維持できるか。

③第4章～第6章部分について

(事務局説明) …別添資料の要点のみ説明。

(委員) 文化会館は大規模改修と記載があるが、移転・新築は無いということか？

(副市長) 新築・移転はしない。文化会館の新築はあまりにも高額になるため。

(委員) スケジュールでは、前期5年に市役所庁舎と複合施設が集中している。検討委員の我々はこれを認めるという立場にあるのか？

(副市長) 検討委員会の設置要綱に記載のとおり、所掌事項は委員それぞれの立場から意見を述べること。ご意見は自由に出していただきたい。ただし処理については事務局にお任せいただきたい。意見を反映できる部分は修正する。

(委員) 計画案 P26 の表の記載だが、例えば市役所庁舎は改築・大規模改修・耐震改修・長寿命化のいずれかを選択するというわけではない？

(事務局) 各施設の整備方針と計画は P20 から文章で記載している。表はそれをまとめたものである。

(委員) 素朴な質問だが、P26 の表では、市役所庁舎を新築するなら既存施設ではなく新規施設に記載するべきではないか？

(事務局) 建築基準法上、同じ場所に建て直す場合は改築、移転する場合は新築となるが、既存施設とは機能が既にある施設という意味で記載している。

- (委員) この計画のメインは市役所庁舎であると思う。現状の市役所庁舎の外観はみすばらしい。同じ場所でも移転でも良いので新しくすべき。予算をかけて改修したところで大して変わらない。
- (委員) 同意見。
- (委員) 概算工事費の記載があるが、これは鉄筋コンクリートなどの構造と床面積等の構想がすでに出来ているということか？
- (事務局) 構想はまだ出来ておらず、これから作る。工事費の概算は、国の官公庁施設の設計基準を参考に算出している。例えば市役所庁舎なら職員数×1人当たり必要面積×標準単価で算出。
- (委員) ゼネコンでない人、我々のような市民が労働力になって気軽に修繕や改修できる建物があれば良いと思う。維持管理費は市民の手作業で賄うという考え方。予算のない余所の自治体でのこのような取り組みを聞いたことがある。
- (委員) 現在、国や県をはじめとして木材を積極的に利用していこうという動きが活発化している。最近ようやく市町村レベルでもその動きがでてきたところ。戦後植林した樹齢70年の杉が切り出せる時期になった。「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」も林野庁から出ている。持続可能な素材である木材を是非公共施設で使ってもらいたい。廃止する施設については、文章として記載があるが、スケジュールを明記すべきではないか。
- (委員) 平野と西根の地区体育館は廃止する方針だが、確かにスケジュールは言及せず遠慮している感じを受ける。
- (委員) 概算事業費がポイント。もう少し市民に分かりやすい表現にできないか。記載のグラフを見て、財政破綻はしないとわかる記載があっても良いのでは。
- (委員) 10年で141億円、うち、前期5年で111億円を使う。この偏りについて市はどのように考えているか？
- (事務局) 概算費用は公共施設として標準的な鉄筋コンクリート造を想定した面積単価(40万円/㎡)で試算。現在の建設物価の状況としては、鉄筋コンクリート造と比較して鉄骨造は安価だが、大規模木造はむしろ高額。財政状況を見ながら、安価な鉄骨造、民間施設との合築や、余裕があれば高価な木造も施設ごとに検討はしていく。全市的には今後、社会保障費の支出が増えていく。141億円で大丈夫だと良いが、不安もある。P30に記載があるが、現状の試算では財政安定の目安となる実質公債費負担額は第5次総合計画の目標値より下なので安全レベル。極力、これより下げるように進めていく。
- (委員) 国の仕組みに従わないと補助が出ないとか、枠にはまったやり方しかなさそう。これからは意識を変えないといけない。国は国民の財産や人命を守るために規制をしているが、意識を変えて規制の枠外で考え、自分たちで経費を負担し、収益を増やしていく思考が必要。市役所庁舎は高層化せず平屋とし、行政エリアを実現できないか。その他、地産地消のための整備も必要と思う。
- (委員) 何事もバランスが必要と思う。規制緩和は強者の論理。規制緩和により失われる側面もある。守られるべき人が守られなくなることもある。企業や施設がある地域は良いが、無い地域はその恩恵は受けにくい。

(委員) 地域差は確かにある。どうするかは地域特性を見て決めるべき。ただ、日本の場合は手を差し伸べすぎに思う。見守るだけにして自助努力を促すことも必要と考えている。

(委員) とある外国の議員宿舎が木造のバラックのような建物だった。計画期間 10 年で整備費 141 億円を予定しているが、予算が足りずに出来ないものは無くても良いと思う。人口問題の課題は単純な人口数ではなく、その中の就労人口が減り、税収が減ること。よって予算は厳しめに試算した方が良いと思う。予算がなく施設の整備や修繕が出来なければ、住民の自助努力による修繕も必要ではないか。

(委員) 市では教育と子育てを主軸としながらも、現実的には高齢者介護が主な課題。予算が無ければマンパワーを使って乗り切ってはどうかという提案か。

(委員) 庁舎でいえば、職員と市民の距離が近くなる建て方が良い。公共施設は木造化や平屋でバリアフリーとし、1つの施設ではなく点在化させて、まちなかに人がうごめくような動線計画も考えられる。そこに川や水資源の活用もあるだろう。あのエリアには人がよく歩いてる、というまちづくり。昔は裏道が多かった。裏道の先に意外なものがあるというワクワク感があると面白い。

(委員) 長井病院の記載が見当たらないが、この計画ではどういう扱いか？

(副市長) 長井病院は置賜広域病院組合の所有。ただし、長井病院を耐震改修する場合は財源を市が負担する。この計画では市所有施設が対象のため未記載としている。市の所有でない施設の扱いについては P24 に記載のとおり。

(委員) 141 億円を有効に使えるように検討を進めてもらいたい。最近では学童クラブの需要が高まっている。計画に記載の地区以外にも学童クラブ新設の可能性もある。中心市街地の活性化を図りながら、郊外地区の住民が中心に立ち寄れるよう、公共交通の充実化も求められる。市営バスも 2 年前に拡充した。利用者は少なくとも公共交通は必要。郊外地区をどう結ぶかも市には引き続き考えてもらいたい。

(副市長) 参考になり、また面白い意見が出たことに感謝。日頃まちづくりに携わっている皆さんの想いも感じた。市民の自治への関わり、自然との関わり、公共公益施設が集積するシビックゾーンをどう考えるかは面白い視点。また、財政状況の悪化を危惧されていることも感じた。141 億円という額でも事務局側では相当抑えた額。実質公債費負担額の安定レベルを上回らないようにしたため。今後は福祉関係費、扶助費が増えるが、そんな中でも施設整備費は確保していきたい。最少費用で最大限の効果を上げることが行政の役目。

(3) その他

特になし

4. その他

(事務局) 次回、第 3 回の会議は 10/26 (水) 15:15~17:00 を予定。

5. 閉会

以上